

HOTEL 忠&曆 WEB
Suite & Parker
オンリー





何日も
既読すら
付かなくて

いつも
夜には返事
くれんのに



オレらしく
ないことに

返事が無いのが
心配？つつか
不安？になって
きちまつて



スネークにさ
いつもみたいに
特に何でもない
メッセを送ったんだ

そしたら—

Not Enough!

棕



Sの会場で
直接本人を
捕まえたと
思ったら—

…た



何だよ…っ

そんなに
見つめて
くんないよぉ!!

うー!



なんで…っ

ふ…っ

ちゅ

ふっ

屋外でなんて
忠さんの方が
嫌がるどころ

いつ誰に
見られるか
分かんねえ

今日はミヤや
シャドウ…
ランガだつて
来てる

絶対ダメ
なのに

でも…

あ…

ふ

すっげー
きもち…いい…

きゅん…

スル…

…ッ!!

誰か
来た…!?



そういう
問題じゃ
ねーよ！



大丈夫だ

木とフェンスで
向こうからは
見えない



なに
言っでんだ
オレ

これじゃ
まるで—

は—

ふたりつきりに
なれるとこ…

めちやくちや
忠さんと
したいみてー
じゃん…

は—

すんなら…
ちゃんとした
とこでがいい











優先、たとえば
そうなるのかも
しれないが

その…

会いたく
なるだろう

君のことを
考えると

ムリ

アラーム
かけてんじゃ
ねーよ!!

時間だ
出るぞ

それって—



おしまい